平成 28 年 5 月 16 日

各　　位

会 社 名　株式会社ＳＲＡホールディングス
代表者名　代表取締役社長　鹿　島　　亨
（コード：３８１７、東証第一部）
問合せ先　管 理 本 部 長　淡　路　英　行
（ TEL.03－5979－2666）

特別損失の計上及び平成 28 年３月期通期業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

当社は、平成 28 年３月期（平成 27 年４月１日～平成 28 年３月 31 日）において、下記の通り特別損失を計上することになりましたのでお知らせいたします。また、平成 27 年５月 14 日に公表した通期業績予想と実績値に差異が生じましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

（1）事業投資について

・当社は、事業投資に際して、様々な観点から調査し、リスクを見極め、最適なリスクヘッジを行なったうえで、投資を実施している。

・海外事業投資先のひとつである Proxim Wireless Corporation（以下 Proxim 社）については、第三者機関が事業計画に基づき、客観的な算定方法により企業価値を算出しており、これは投資額に見合うものと判断している。

（2）計上の理由

・当決算においては、純資産方式や DCF 法等に基づく企業価値算定について、考え方の差異がある中、議論を重ねた。
その結果、会計の保守主義の原則に則り、Proxim 社に関して特別損失を計上した。

＜特別損失 1,840 百万円＞
（内訳）　投資有価証券評価損 569 百万円
貸倒引当金繰入額 1,271 百万円

・本件は、キャッシュアウトを伴わない一過性の評価損であり、特別損失である。

（3）今後の対応

・投資先である Proxim 社は、ワイヤレスデータコミュニケーションにおける先端技術を有し、米国ベンチャーキャピタルと共同で資金及び経営の両面で支援を継続する。

・近年、経営を一新し、市場の選択と集中を推進することにより、引き合い案件数・金額は増大している。当社は現行の事業計画を着実に実現することで、投資資産の価値の増大が期待できると判断し、当社とのシナジー効果拡大を図っていく。

2. 平成 28 年3月期通期連結業績予想と実績値の差異

（1）平成 28 年3月期通期連結業績予想数値と実績値の差異（平成 27 年4月1日～平成 28 年3月 31 日）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 37,300	百万円 3,360	百万円 3,450	百万円 2,260	円 銭 187.34
実　績　値（B）	39,155	3,736	3,850	463	38.40
増　減　額（B－A）	1,855	376	400	△1,796	—
増　減　率（%）	5.0%	11.2%	11.6%	△79.5%	—
(ご参考)前期実績 (平成 27 年3月期)	36,535	3,047	3,813	1,638	136.34

（2）差異の理由

・海外事業投資先の投資資産の価値について、保守主義の原則に則り、
投資有価証券評価損及び貸倒引当金繰入額を特別損失に計上した。

・海外事業投資を行なう場合、当社は最も安全な貸付（シニアローン）からの投資が原則である。
Proxim 社には優先株式5百万ドル、ワラント付貸付（シニアローン）12 百万ドルを投資している。

・本日別途開示の「平成 28 年3月期 決算短信[日本基準]（連結）の 1. 経営成績・財政状態に
関する分析 （1）経営成績に関する分析」に記載の通り、当連結会計年度について、上記の
海外事業投資先に対する特別損失を純資産方式に基づき計上した。

・親会社株主に帰属する当期純利益: 463 百万円（業績予想比 1,796 百万円減少）
・売上高: 39,155 百万円(業績予想比 5.0%増収)
・本業の収益:営業利益(11.2%増益)、経常利益（11.6%増益）は業績予想を上回る。

＜配当について＞

・本業において、業績予想比、前年比では、いずれも増収増益である。
特別損失の計上は、キャッシュアウトを伴わない一過性の評価損である為、
配当利回りに考慮し増配とする。

・当期末配当金は1株につき 45 円（前回予想比5円増配）
・中間配当（実施済）25 円と合わせて、年間配当金は 70 円（前年比 15 円増配）

以 上